授業科目　音韻障害Ⅱ（器質）

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	言語
磯野信策	開講時期	後期後半	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<一般目標：ＧＩＯ>】

顎・顔面、口腔、鼻腔の疾患に起因する言語障害について、原因疾患と言語症状の関連を理解し、医学的治療との密接な連携のもとで行う言語治療の方法を修得する。

【<行動目標：ＳＢＯ>】

1．鼻咽腔閉鎖機能と当機能不全に関する十分な知識を持つ。
2．口蓋裂に伴う異常構音について、その発症原因と聴覚印象、構音動態を完全に理解する。
3．顎・顔面の疾患に伴う言語障害とその治療法を理解する。
4．患者とその家族の心理的問題を知り、対応策を考えることができる。
5．器質性構音障害の治療計画を立て、実行できる。

言語聴覚学科　専門

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	唇顎口蓋裂と口蓋裂言語　唇顎口蓋裂という疾患とその治療体系を復習する。鼻咽腔閉鎖機能と当機能不全による共鳴の異常、および、口蓋裂に特有な異常構音を理解する。	1,2	講義
2	鼻咽腔閉鎖機能とその検査法　鼻咽腔閉鎖機能を復習し、言語聴覚士として必要な当該機能の意義とその各種検査法を知り、言語聴覚士が行う検査法を習得する。	1	講義と演習
3	異常構音　口蓋裂に伴う異常構音の原因と聴覚印象、構音動態、障害されやすい音を理解する。	2	講義と演習
4	口蓋裂以外の鼻咽腔閉鎖機能不全を生じる疾患　粘膜下口蓋裂、軟口蓋マヒなど唇顎口蓋裂以外に口蓋裂言語を生じる疾患とその治療法を知る。	3	講義
5	顎顔面の奇形を伴う各種の症候群における言語障害　顎顔面の先天異常に伴う言語障害を知るとともに、患者や家族の心理的・社会的問題を理解し、言語聴覚士としての援助のあり方を考える。	3,4	講義
6	口腔の機能、形態の異常に伴う言語障害とその治療　口腔腫瘍を中心として、発音器官の機能障害と形態異常に伴う言語障害を知り、その治療法を習得する。	3,4	講義
7	器質性構音障害に対する治療	5	講義と実習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	口腔顔面領域の異常と言語障害	伊東節子編著	医歯薬出版	2001年・4725円
参考書	口蓋裂の言語臨床	岡崎恵子他	医学書院	2000年・5250円
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害の臨床6口蓋裂・構音障害	日本聴能言語士協会	協同医書出版	2001年・3990円
	ｼﾘｰｽﾞ言語臨床事例集第１巻　口蓋裂	岡崎恵子他編	学苑社	1999年・4410円
その他の資料	随時配布する。			

【評価方法】

定期試験により評価する。

【履修上の留意点】

構音と共鳴に関して音声学、音響学を十分に理解しておく必要がある。
臨床歯科医学、口腔外科学、形成外科学、耳鼻咽喉科学は関連医学として重要である。